

# I. 平成27年度の概要

## 1. 事業について

- (1) 公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、「生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を奨励することにより、この分野の学術の振興を図り、もって、人類の健康と福祉の増進に寄与する」ことを目的として、平成22年10月1日に公益財団法人へ移行し、定款に定める事業を開始した。

この事業報告及び決算報告書は、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの期間についての当法人の事業活動を取りまとめたものである。

- (2) 平成27年度は、第一三共株式会社からの寄附金収入、基本財産の運用収入並びに前年度からの繰越金を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業（公1）並びに研究業績褒賞事業（公2）に区分して実施した。

助成事業 (公1)	1. 研究助成 2. 海外共同研究支援助成 3. 研究会・シンポジウム開催助成 4. 海外留学奨学助成
研究業績褒賞事業 (公2)	1. 研究業績褒賞事業（第13回高峰記念第一三共賞） 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（第32回高峰カンファレンス）

- (3) 本年度は、公益目的各事業の見直しについて検討を行い、研究者のニーズを探りながら、新規の助成事業に関し審議を行った（新規助成プログラム検討委員会の設置）。その結果、平成28年度より、研究助成の一派生プログラムとして、研究責任者（PI）の研究ユニット立上げを対象とした「PIセットアップ研究助成」を設けることとした。

## 2. その他について

- (1) 指定寄附金収入

第一三共株式会社より、平成27年4月20日、指定寄附金として、1億5千5百万円を受領した。

- (2) 主要事業活動報告

- 平成27年4月16日の第11回選考委員会において、平成27年度海外共同研究支援助成及び平成27年度研究会・シンポジウム開催助成の候補者、並びに第13回高峰記念第一三共賞第一次候補者の選考を行った。
- 平成27年5月25日の第13回高峰記念第一三共賞審査委員会において、同賞の最終候補者の審査を行い決定した。
- 平成27年6月3日の第20回理事会において、平成26年度（平成26年4月1日～平成

27年3月31日)の事業報告及び決算報告書、平成27年度海外共同研究支援助成者の決定、平成27年度研究会・シンポジウム開催助成者の決定、第13回高峰記念第一三共賞受賞者の決定、新規助成プログラム検討委員会設置、「評議員会の日時及び場所並びに目的である事項」の件の各件について、審議され、承認された。

- 4) 平成27年6月24日の第8回評議員会において、平成26年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日)決算報告書、定款の変更、役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程変更の各件について審議され、承認された。
- 5) 平成27年6月25日に内閣府に平成26年度事業報告等の提出を行った。
- 6) 平成27年6月25日に内閣府に定款の変更に係わる変更届及び役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程変更に係わる変更届を行った。
- 7) 平成27年10月27日の第12回選考委員会において、平成27年度研究助成候補者及び平成28年度海外留学奨学研究助成候補者の選考を行った。内、平成28年度海外留学奨学研究助成については、11月25日に内定者(5名)の面接を実施した。
- 8) 平成27年11月13日に新規助成プログラム検討委員会を開催し、PIセットアップ研究助成(最終案)が審議された。
- 9) 平成27年12月7日の第21回理事会において、平成27年度研究助成対象者決定、平成28年度海外留学奨学研究助成対象者決定、高峰記念第一三共賞審査委員改選、PIセットアップ研究助成の新設、平成28年度事業推薦・応募要領、助成(褒賞)候補者推薦依頼先、資産運用規程改訂の各件について、審議され、承認された。
- 10) 平成28年2月8日の第22回理事会において、平成28年度事業計画及び収支予算、マイナンバー関連規程の各件について、審議され、承認された。
- 11) 平成28年2月8日、第13回高峰記念第一三共賞の贈呈式が実施された。
- 12) 平成28年2月17日に内閣府に平成28年度事業計画等を提出した。
- 13) 平成28年2月17日に内閣府に研究助成事業に係わる変更届を行った。
- 14) 平成28年3月11日に第32回高峰カンファレンスを開催した。

### (3) 人事関係

平成27年12月7日の第21回理事会において、研究業績褒賞に係る審査委員(高峰記念第一三共賞審査委員)の任期満了に伴う改選が行われ、高久史磨委員長、豊島久真男委員、別府輝彦委員の3名が退任、3名が新たに就任し、現在数は変わらず、6名となった。

## Ⅱ. 平成27年度事業報告

### 1. 事業の総括

	事業	金額	備考
助成事業 (公1)	研究助成 (定款第4条-1)	60,000千円	平成26年度 @100万円×30件 平成27年度 @100万円×30件
	海外共同研究支援助成 (定款第4条-2)	2,500千円	@50万円×5件。6件を採択も、その後、1件辞退となり、結果5件となった。
	研究会・シンポジウム開催助成 (定款第4条-3)	1,500千円	@50万円×3件
	海外留学奨学研助成 (定款第4条-4)	26,500千円	平成26年度 @300万円×3件 @250万円×1件 平成27年度 @300万円×5件
	その他助成事業費	28,500千円	
	助成事業計	119,000千円	
研究業績褒賞事業 (公2)	研究業績褒賞費 (定款第4条-5)	11,094千円	第13回高峰記念第一三共賞
	シンポジウム開催 (定款第4条-5)	7,065千円	第32回高峰カンファレンス
	その他研究業績褒賞事業費	9,098千円	
	研究業績褒賞事業計	27,257千円	
合計		146,257千円	

### 2. 助成事業 (公1)

#### (1) 平成27年度研究助成 (定款第4条-1)

- 1) 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、研究助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。
- 2) 募集対象：日本国内在住の生命科学分野を専攻し、優秀、かつ最先端の研究をする50歳未満の研究者。
- 3) 募集規模
  - ①1件当たり200万円（助成期間は、2年間）
  - ②採択数：30件
- 4) 募集方法
  - ①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長・研究所長、研究機関長並びに当法人の理事・評議員・顧問、過去の褒賞受賞者に対して推薦を依頼した。
  - ②当法人ホームページにて、応募要領を掲載し、募集した。

## 5) 応募方法

- ①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長・研究所長、研究機関長並びに当法人の理事・評議員・顧問、過去の褒賞受賞者を推薦者とし、応募要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付した。
- ②応募者は、上述の推薦者に推薦を依頼した。
- ③推薦者は応募者の中から、応募者選定ガイドラインに基づき、応募者を公正かつ適正に選定した。
- ④応募者は、推薦書を取得後、所定の申請書、主要論文を当法人に送付した。
- ⑤応募受付期間：平成27年4月1日～5月31日

## 6) 平成27年度の応募数：200件

- 7) 選考方法：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第12回選考委員会による選考結果をもとに、第21回理事会にて30件の助成対象者を決定した。(附属明細書資料 - 1：平成27年度当該助成採択者参照)

## 8) 研究成果の公表

- ①助成者は、助成期間終了後、研究論文を当法人に提出する。
- ②助成者は、助成期間終了後、収支決算書を当法人に提出する。
- ③助成者の研究論文を基に、研究報告集を作成し、当法人関係者、助成者並びに大学等研究機関の図書館に寄贈する。尚、本年度は、平成25年度研究助成並びに海外留学奨学研究助成等の成果論文について、当該報告集Vol.31として、平成27年10月21日に発刊し、281箇所寄贈した。
- ④助成者の氏名、研究テーマを当法人ホームページにて掲載した。

## (2) 平成27年度海外共同研究支援助成（定款第4条-2）

- 1) 概要：海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成を行う。
- 2) 募集対象：海外の学者との共同研究を行っている、日本国内在住の生命科学分野を専攻する研究者で、海外の研究者との共同研究を目的とした、海外渡航或いは海外の研究者を招聘する者。

## 3) 募集規模

- ①1件当たり50万円以内
- ②採択数：研究会・シンポジウム開催助成と併せて10件以内

## 4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一

## 5) 応募方法

- ①応募方法は、「研究助成」と同一
- ②応募受付期間：平成27年1月15日～2月28日

## 6) 平成27年度の応募数：9件

- 7) 選考方法：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第11回選考委員会による選考結果をもとに、第20回理事会にて6件の助成対象者を決定した。その後、平成28年1月15日に1件の辞退があり、当該助成金が返金された。(附属明細書資料-2：平成27年度当該助成採択者参照)
- 8) 成果：実施終了後、実施報告書並びに収支報告書を提出する。

(3) 平成27年度研究会・シンポジウム開催助成（定款第4条-3）

- 1) 概要：萌芽的な研究をテーマとした、国際シンポジウムを対象とする助成である。
- 2) 募集対象：生命科学分野に関する国際シンポジウムの中で、過去に海外で開催され、助成対象期間に日本にて開催される国際シンポジウムの開催助成
- 3) 募集規模
  - ①1件当たり50万円以内
  - ②採択数：海外共同研究支援助成と併せて10件以内。
- 4) 募集方法：当法人ホームページにて、応募要領を掲載し、募集した。
- 5) 応募方法
  - ①応募者は、所定の申請書必要事項を記入後、当法人に送付した。
  - ②応募受付期間：平成27年1月15日～2月28日
- 6) 平成27年度の応募数：5件
- 7) 選考方法：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第11回選考委員会による選考結果をもとに、第20回理事会にて3件の助成対象者を決定した。(附属明細書資料-3：平成27年度当該助成採択者参照)
- 8) 成果：実施終了後、実施報告書等並びに収支報告書を提出する。

(4) 平成28年度海外留学奨学研究助成（定款第4条-4）

- 1) 概要：海外の研究機関にて一定の期間研究に専念する優秀な若手研究者に奨学研究助成金を交付する。
- 2) 募集対象
  - ①原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下である者。尚、医師免許取得者は37歳以下とする。
  - ②海外の大学等研究機関において、1年間以上研究に従事することを計画している者。
- 3) 募集規模
  - ①1件当たり600万円（助成期間は、2年間）
  - ②採択数：5件以内

4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一

5) 応募方法

①応募方法は、「研究助成」と同一

②応募受付期間：平成27年4月1日～5月31日

6) 平成28年度の応募数：49件

7) 選考方法

①理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第12回選考委員会による選考結果をもとに、内定候補者を決定。その後、内定候補者の辞退があったため、選考委員会にて承認された手続きに則り順次繰り上げ、上位者5名を内定候補者とした。

②11月25日に、辻省次選考委員長、堅田利明選考委員を面接官として、内定候補者の面接を実施し、最終内定者（5名）を決定した。

③第21回理事会にて5名の助成対象者を決定した。（附属明細書資料-4：平成28年度当該助成採択者参照）

8) 研究成果の公表：「研究助成」と同一。

(5) 新規助成プログラムの検討及びPIセットアップ研究助成の導入

1) 背景：当法人の公益財団法人移行後、6期目を迎え、これまで、助成応募者である研究者に対してアンケート調査を行い、ニーズを探ってきた。その一環として、平成25年度に実施した財団創立30周年記念助成事業である海外帰国研究者研究継続支援助成に対して、応募数において反響があったため、当該助成をもとに新規の研究助成プログラムを検討することにした。

2) 検討経緯：平成27年6月3日の第20回理事会において、新規助成プログラム検討委員会の設置を承認。検討委員として、永井良三理事、福山透理事、辻省次選考委員長、金子次男常務理事が就任した。当法人理事、選考委員等の意見聴取を得て事務局案を作成し、平成27年11月13日に新規助成プログラム検討委員会を開催し、最終案として、研究助成の一派生とするPIセットアップ研究助成を取り纏めた。また、導入に当たり、海外共同研究支援助成並びに研究会・シンポジウム開催助成については、経費及び工数を鑑み、隔年実施に変更することとした。平成27年12月7日の第21回理事会において、同案の実施が承認された。平成28年2月17日に内閣府に当該事項に関し変更届を行った。

3) 新規助成プログラムの概要

①名称：PIセットアップ研究助成（定款第4条-1）

②助成対象：研究責任者（PI）として、応募申請年度或いはその前年度に、原則、研究機関間の移動を伴って日本国内で新たに研究ユニットを立ち上げた、或

いは立ち上げ予定の研究者。応募申請時点で海外滞在者を含む。

③特徴

ア) 研究ユニット立ち上げに必要な研究用汎用機器及び備品類の購入可。

イ) 当法人の他種助成金と重複して助成を受けることが可。

ウ) 応募申請年度現在で45歳以下の研究者。

④募集規模

ア) 1件当たり300万円とする。(助成期間は、3年間)

イ) 採択数：新規5件以内

⑤応募方法・選考方法・助成金の交付・研究成果の公表：研究助成と同一

⑥応募受付期間：応募申請年の1月15日～2月末。尚、隔年実施とする。

平成28年度応募分として、平成28年1月15日～2月29日に受付を実施。

### 3. 研究業績褒賞事業（公2）

(1) 研究業績褒賞事業（定款第4条-5）

1) 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。

2) 褒賞名：第13回高峰記念第一三共賞

3) 褒賞対象者：生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究において、その進歩・発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される日本国内在住の研究者。

4) 推薦方法

①理事会において選定された全国の生命科学分野の大学院研究科長・研究所長等、研究機関長、又は、当法人の理事・評議員・顧問・選考委員、過去の褒賞受賞者に推薦を依頼した（但し、高峰記念第一三共賞審査委員は推薦者より除く）。

②推薦期間：平成27年1月15日～2月28日

③推薦件数：本年度は、8名の推薦があった。

5) 選考方法

①第一次選考：第11回選考委員会により応募候補者の選定を行い、4名の候補者が第二次候補者となった。

②第二次応募候補者に対し応募の意思の確認および応募申請の要請を行った。

6) 最終選考

①第13回高峰記念第一三共賞審査委員会は、応募申請書及び選考委員会結果を参考に、審査基準に基づき審議し、最終候補者を選定した。

②第20回理事会において、褒賞受賞者を決定した。

③受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由を当法人ホームページにて掲載するとともに、当法人出捐会社の第一三共株式会社よりプレスリリースを実施した。

#### 7) 受賞者及び受賞研究テーマ

受賞者：一條秀憲博士（東京大学大学院薬学系研究科教授）

受賞研究テーマ：「ストレスシグナル分子機構の解明と創薬医療科学基盤の創成」

#### 8) 褒賞の方法および贈呈

①賞状、賞牌並びに副賞（1,000万円）を贈呈した。

②贈呈式を実施し、表彰した（日時：平成28年2月8日、場所：如水会館）。出席者数：49名。

③贈呈式において、受賞者に講演を依頼。当日、受賞者の略歴・業績集を贈呈式参加者に配布した。

#### (2) 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（定款第4条-5）

1) 概要：高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学術交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。

2) 名称：第32回高峰カンファレンス

3) 開催の内容

①テーマ：「生体恒常性維持機構の破綻（ストレス）と疾患」

②開催時期：平成28年3月11日

③開催場所：如水会館

④プログラム：受賞者による記念講演及び関連講演。

##### ア) 記念講演

座長：高久史磨先生（日本医学会長）

演者：一條秀憲先生（東京大学大学院薬学系研究科教授）

演題：細胞がストレスを感じる仕組みの解明から創薬へ

##### イ) 講演

座長：一條秀憲先生（東京大学大学院薬学系研究科教授）

演者1：藤田恭之先生（北海道大学遺伝子病制御研究所教授）

演題：正常上皮細胞と変異細胞間に生じる細胞競合

—新規癌治療法の開発を目指して—

演者2：村田茂穂先生（東京大学大学院薬学系研究科教授）

演題：プロテアソームの多様性と生体制御



演者3：森 泰生先生（京都大学大学院地球環境学堂教授）

演題：TRPチャンネルの生理学：生体の状態・環境変化に対する細胞の  
感知と適応における役割

⑤応募方法及び出席者数：募集期間（平成28年1月15日～2月12日）を設定し、  
高峰カンファレンステーマに関連する研究を行う大学大学院、研究機関等に  
ポスター配布、当法人ホームページより参加者を募った。その結果、100名の  
参加者を得た。

⑥開催終了後の成果物：実施内容を当法人ホームページへ掲載した。

以 上

## 4. 附属明細書

[資料-1]

## 平成26年度研究助成採択者

30件（交付金：1件 100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究課題
新井文用	九州大学大学院 医学研究院応用幹細胞医科学部門 幹細胞再生修復医学分野	老化造血幹細胞の細胞分裂制御におけるShelterin分子の機能解析と体外増幅に向けた応用
石井直人	東北大学大学院 医学系研究科免疫学分野	T細胞共刺激分子OX40を介する細胞内シグナル伝達機構の解明
伊東史子	東京薬科大学 生命科学部心血管医科学研究室	リンパ浮腫や腫瘍転移抑制を目指したリンパ管新生の分子メカニズムの解明と応用
大木理恵子	国立がん研究センター研究所 難治がん研究分野	新規がん抑制遺伝子 <i>PHLDA3</i> によるAkt経路の制御機構解明と治療への展開
大倉永也	大阪大学医学系研究科 最先端医療イノベーションセンター 基礎腫瘍免疫学共同研究講座	エピゲノムに基づく制御性T細胞の機能解明と臨床応用
大洞将嗣	九州大学生体防御医学研究所 感染ネットワーク研究センター 分子免疫学分野	自己免疫性炎症の新規制御機構の解明
鏡雅代	国立成育医療研究センター研究所 分子内分泌研究部	原因不明SGA性低身長に対する網羅的分子遺伝学的検討
五島剛太	名古屋大学大学院理学研究科 生命理学専攻	小頭症原因遺伝子ASPMの機能解析
小谷友也	北海道大学大学院理学研究院 生物科学分野生殖発生生物学講座	成熟卵子形成の分子細胞生物学的研究
坂田(柳元) 麻実子	筑波大学医学医療系血液内科	T細胞リンパ腫の治療モデルの作製
匂坂敏朗	神戸大学大学院医学研究科 生理学・細胞生物学講座膜動態学分野	新しい膜挿入システムと膜挿入病の解明
鈴木教郎	東北大学大学院医学系研究科 酸素医学コアセンター 新医学領域創生分野	造血因子エリスロポエチンの産生機序から理解する慢性腎臓病の分子病態
田中元雅	独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター タンパク質構造疾患研究チーム	タンパク質の凝集化に着目した精神障害発現機構の解明
田中芳彦	福岡歯科大学 機能生物化学講座 感染生物学分野	病原微生物に特異的な免疫応答による口腔真菌感染症の予防法と治療法の開発
土居雅夫	京都大学大学院 薬学研究科医薬創成情報科学専攻システム バイオロジー分野	オーファン受容体とそのリガンド同定による脳内中枢時計神経ネットワーク機構の解明

氏名	所属機関	研究課題
富澤 一 仁	熊本大学大学院 生命科学研究部・分子生理学分野	X染色体連鎖性精神遅滞の分子機構の解明
富田 泰 輔	東京大学大学院 薬学系研究科臨床薬学教室	細胞内小胞輸送攪乱によるアルツハイマー病発症機構の解明
朝長 啓 造	京都大学ウイルス研究所 ヒトがんウイルス研究分野	インフルエンザウイルス感染におけるO型糖鎖修飾酵素の機能解明と治療への応用
中川 秀 彦	名古屋市立大学大学院 薬学研究科薬化学分野	NO関連情報伝達分子の次世代型光線力学療法剤の開発研究
中島 友 紀	東京医科歯科大学 大学院 医歯学総合研究科分子情報伝達学	破骨細胞分化・成熟を司る制御遺伝子の同定と機能解析
羽鳥 恵	慶應義塾大学医学部眼科学教室 時間生物学研究室	哺乳類の網膜神経節細胞内における光受容情報伝達メカニズムの解明
原田 浩	京都大学医学部附属病院 放射線治療科	腫瘍内低酸素がん細胞の動的平衡の時空間解析と化学放射線療法最適化への展開
深田 正 紀	自然科学研究機構 生理学研究所 細胞器官研究系生体膜研究部門	パルミトイル化サイクルによるRasおよびGα蛋白質の動態制御機構の解明
星野 幹 雄	国立精神神経医療研究センター 神経研究所 病態生化学研究部	自閉症関連遺伝子の神経回路形成における機能と限局性皮質異形成症の形成機序の解明
南野 徹	新潟大学大学院 医歯学総合研究科循環器内科	血管ニッチ老化による加齢関連疾患発症メカニズムの解明
村木 則 文	自然科学研究機構 分子科学研究所 生命・錯体分子科学研究領域	マラリア原虫のヘム無毒化機構を標的とする創薬に向けた構造基盤の解明
山口 英 樹	国立がん研究センター研究所 難治進行がん研究分野	多色蛍光イメージングによるスキルス胃癌腹膜播種機構の解析
山下 政 克	愛媛大学大学院 医学系研究科免疫学・感染防御学講座	グルタミン代謝調節を介したヘルパーT細胞サブセット分化とアレルギー性炎症の制御
山田 雅 巳	大阪市立大学大学院医学研究科	神経細胞遊走障害を伴う先天性神経疾患に共通する細胞内物質輸送機構の解明
吉田 松 生	自然科学研究機構 基礎生物学研究所 生殖細胞研究部門	精子形成の高温障害のメカニズムの解明

平成27年度研究助成採択者

30件（交付金：1件 100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究課題
一戸 猛志	東京大学 医科学研究所感染症国際研究センター 感染制御系ウイルス学分野	SFTSウイルスによるNLRP3 inflammasomeの制御
井上 治久	京都大学iPS細胞研究所	iPS細胞を用いたALS創薬分子マーカーの同定
今吉 格	京都大学ウイルス研究所増殖制御学	光作動性転写因子を用いた神経幹細胞の光操作と神経疾患治療への応用
大島 茂	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 消化器病態学講座	ポリユビキチン鎖調節によるクローン病治療法開発
大戸 梅治	東京大学大学院 薬学系研究科蛋白構造生物学教室	自然免疫受容体による病原体認識の構造基盤の解明
小内 伸幸	東京医科歯科大学 難治疾患研究所生体防御学分野	新規ヒト単核性貪食細胞前駆細胞の同定と感染防御機構の解明
金田 篤志	千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学	痛症例層別化に基づく家族性大腸癌の発癌分子機構の解明
川村 晃久	立命館大学生命科学部生命医科学科	代謝とヒストンアセチル化の制御による安全かつ効率的な心筋再生療法の確立
北川 大樹	国立遺伝学研究所分子遺伝研究系 中心体生物学研究部門	複合的アプローチを用いた機能的な中心小体構造構築の分子機構の解明
木戸屋 浩康	大阪大学微生物病研究所情報伝達分野	血管新生に依存しない、新たな腫瘍血管の形成メカニズムの解明
小柴 琢己	九州大学大学院理学研究院生物科学部門 生体高分子学講座	哺乳動物におけるミトコンドリア・ダイナミクスの破綻に伴う生理的影響の解析
齊藤 博英	京都大学iPS細胞研究所 初期化機構研究部門	人工RNAネットワークを基盤とする細胞創出技術の開発
佐々木 雄彦	秋田大学大学院 医学系研究科微生物学講座	膜リン脂質代謝異常による心筋症発症機序の解明
佐藤 悠佑	京都大学大学院 医学研究科腫瘍生物学講座	網羅的ゲノム解析による腎細胞癌の分子標的薬の治療効果予測と耐性獲得機序の解明
澤 智裕	熊本大学大学院 生命科学研究部微生物学分野	システイン合成を標的とした新しい抗菌薬増強メカニズムの探索
菅波 孝祥	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 臓器代謝ネットワーク講座	代謝性組織リモデリングとその変容によるメタボリックシンドロームの分子機構の解明
中島 欽一	九州大学大学院 医学研究院基盤幹細胞学分野	神経幹細胞における、発作誘導性エピジェネティック変動制御を介したてんかん治療法の開発
中田 慎一郎	大阪大学大学院 医学系研究科細胞応答制御学	ユビキチン化によるDNA相同組換え修復の制御機構の解明
西 良太郎	立命館大学生命科学部生命医科学科	Nuclear speckleと呼ばれる核内構造体によるDNA修復制御機構の解明

氏名	所属機関	研究課題
禾 晃 和	横浜市立大学大学院生命医科学研究科 構造医科学部門構造生物学研究室	低密度リボ蛋白質受容体ファミリーにおけるリガンド結合と解離の分子機構の解明
華 山 力 成	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 免疫ネットワーク研究室	腫瘍由来エクソソームによるマクロファージの活性化と癌悪液質の発症機構
林 眞 理	京都大学白眉センター/生命科学研究科 細胞周期学講座	がん化を引き起こす染色体融合を持つヒト体細胞を可視化する新規システムの構築
疋 田 貴 俊	京都大学大学院医学研究科 メディカルイノベーションセンター	運動制御と認知機能における大脳基底核神経回路機構の解明
福 原 茂 朋	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター研究所 細胞生物学部	血管の安定化・成熟化を制御する分子メカニズムの解明
前 川 洋 一	岐阜大学大学院 医学系研究科寄生虫学・感染学分野	免疫記憶機構を標的とした難治性免疫疾患の新規治療法の開発
松 井 啓 隆	熊本大学大学院 生命科学研究部 臨床病態解析学分野	リボソームRNAプロセシング因子の変異が惹起する低形成白血病発症メカニズムの探求
松 原 亮 介	神戸大学大学院 理学研究科化学専攻有機反応化学講座	一酸化窒素の局所選択的投与を可能にする分子構造設計
水 関 健 司	大阪市立大学大学院 医学研究科 生理学第二教室	記憶形成における海馬体神経回路の動作原理
南 敬	東京大学先端科学技術研究センター 血管生物学分野	ダウン症因子とエピゲノム制御因子の内皮的制御解析（アクセル/ブレーキ論理解明）に基づく抗血管疾患アプローチ
宮 崎 正 輝	京都大学 再生医科学研究所再生免疫学分野	Id蛋白質による転写制御とCD4T細胞の分化?活性化の調節機構の解明

## 平成27年度海外共同研究支援助成採択者

6件（交付金：1件 50万円）

(50音順、敬称略)

氏名	共同研究者名 所属機関	A：共同研究テーマ B：共同研究開始時期 C：期間
小野 弥子 公財) 東京都医学総合 研究所 生体分子先端 研究分野 カルパインプロジェクト	Ametz Sáenz Peña Neuroscience Area, Biodonostia Institute, Hospital Universitario Donostia Spain	A：プロテアーゼCAPN3の遺伝子変異により発症 する筋ジストロフィーLGMD2Aの症状が示す、 CAPN3活性復元機構についての解析 B：2012年（平成24年）7月から開始 C：平成27年10月4日～10月22日まで
角田 誠 東京大学大学院 薬学系研究科 生体分析化学教室	Takahiro Ito University of Georgia, Biochemistry & Molecular Biology, USA	A：がん幹細胞におけるアミノ酸代謝酵素の役割解 明 B：2014（平成26年）年1月から開始 C：平成28年3月5日～3月12日まで
小林 純子 北海道大学大学院 医学研究科 組織細胞学分野	W. Colin Duncan MRC Center for Reproductive Health, The Queen's Medical Research Institute, UK	A：ヒト黄体の機能制御メカニズムにおける糖脂質 の役割 B：2012（平成24年）年12月から開始 C：平成27年11月9日～11月20日まで
松本 惇平* 富山大学大学院 医学薬学研究部 システム情動科学講座	Sidney Wiener フランス CNRS研究所 Center for Interdisciplinary Research in Biology	A：意思決定の神経生理学的基盤の解明 B：2013（平成25）年8月から開始 C：平成27年8月15日～平成28年1月15日まで
吉田 理 愛媛大学大学院 医学系研究科 消化器・内分泌・ 代謝内科学講座	Mamun Al-Mahtab Bangabandhu Sheikh Mujib Medical University Bangladesh	A：B型慢性肝炎に対するワクチンを用いた新しい 免疫治療の開発 B：2011（平成23）年4月から開始 C：平成27年10月25日～11月2日まで
SHARIF Jafar 理化学研究所 横浜研究所 統合生命医科学 研究センター（IMS） 免疫器官形成グループ	Matthew C Lorincz Department of Medical Genetics, The University of British Columbia Canada	A：哺乳類の胚発生におけるSRAタンパク群を介し た内在性レトロウイルス（ERV）の転写制御機 構の解析 B：2013（平成25）年4月から開始 C：平成27年10月15日～11月14日まで

\* 松本惇平先生は、平成28年1月15日付にて、助成辞退の申出があり、助成金の返却を受けた。

## [資料-3]

## 平成27年度研究会・シンポジウム開催助成採択者

3件（交付金：1件 50万円）

(50音順、敬称略)

氏名	会議名、場所、開催日、参加人数
カルニンチ ピエロ 理化学研究所 ライフサイエンス技術基盤 研究センター 機能性ゲノム解析部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第29回国際哺乳類ゲノム会議</li> <li>・横浜市開港記念会館 / 理化学研究所横浜キャンパス</li> <li>・平成27年11月8日～11月11日まで</li> <li>・海外参加者：75名、国内参加者：175名、計250名</li> </ul>
中島 美砂子 国立長寿医療研究センター 歯科口腔先進医療開発 センター 再生歯科医療研究部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際歯科学会 歯髄生物学・再生学分野シンポジウム 2016</li> <li>・愛知県名古屋市</li> <li>・平成28年6月26日～6月28日まで</li> <li>・海外参加者：100名、国内参加者：50名、計150名</li> </ul>
宮澤 陽夫 東北大学大学院農学研究科 機能分子解析学分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第12回国際メイラード反応シンポジウム</li> <li>・伊藤国際学術研究センター</li> <li>・平成27年9月1日～9月4日まで</li> <li>・海外参加者：100名、国内参加者：300名、計400名</li> </ul>

## [資料-4]

## 平成26年度海外留学奨学研究助成採択者

5件（交付金：1件 300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・留学先	研究課題
東 正大 *1	北海道大学大学院 医学研究科免疫学分野 モンリオール大学 カナダ	反復プロテオミクスによるオートファジーを介した抗原提示基盤の解明
河野 浩之	国保水俣市立総合医療センター神経内科 Priority Research Centre for Translational Neuroscience and Mental Health, The University of Newcastle オーストラリア	超急性期脳梗塞に対する血管再開通療法の適応拡大のための研究
菅原 亨	国立成育医療研究センター研究所 University of Southern California 米国	ALSの発症のメカニズムの解明、およびマイクロRNAの機能解析
二村 圭祐 *2	大阪大学大学院 医学系研究科遺伝子治療学 国立衛生研究所 米国	クロマチン制御異常による先天性心疾患発症メカニズムの解明
日野原 邦彦	東京大学 医科学研究所分子療法分野 Harvard Medical School Dana-Farber Cancer Institute 米国	乳がん幹細胞制御に関わるエピゲノム解析

\*1 平成27年1月末にて給与取得のため、奨学金交付停止。助成総額：250万円（平成26年度発生）。

\*2 平成28年1月帰国。助成総額：550万円

平成27年度海外留学奨学研究助成採択者

5件 (交付金：1件 300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・留学先	研究課題
太田 翔	京都大学IPS細胞研究所 University of California, Los Angeles、米国	多能性幹細胞の分化に伴う細胞種特異的NF-κBシグナル伝達システム構築原理の解明
笠松 純	北海道大学大学院医学研究科免疫学分野 ワシントン大学 (セントルイス) 米国	自然リンパ球と適応免疫系の機能連帯に関する研究
平山 雅敏	慶應義塾大学医学部眼科学教室 Salk Institute for Biological Studies 米国	誘導メラノプシン発現網膜神経節細胞による視機能再生
南 俊行	大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器・免疫アレルギー内科学 カリフォルニア大学サンディエゴ校 Moore's Cancer Center 米国	肺癌とその微小環境との相互作用を標的とした新規分子標的治療薬の開発
宮林 弘至	東京大学医学部附属病院消化器内科 ハーバード医科大学 米国	KRAS遺伝子を標的とした肺癌の治療可能性の検討

平成28年度海外留学奨学研究助成採択者

5件 (交付金：1件 300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・留学先	研究課題
永井 利幸	国立研究開発法人国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 インペリアルカレッジ・ロンドン 英国	心不全診療における医療の質とリスクモデル構築に関する日英共同多施設レジストリ研究
永田 安伸	京都大学大学院医学研究科腫瘍生物学 Department of Translational Hematology and Oncology Research, Cleveland Clinic 米国	骨髄異形成症候群における腫瘍発症メカニズムおよびクローン進化の解明
林 周一	国立研究開発法人理化学研究所 多細胞システム形成研究センター 高次構造形成研究チーム Department of Physiology, Anatomy and Genetics, University of Oxford 英国	神経活動依存的な脳神経回路形成の制御とその異常によるヒト疾患の分子基盤の解明
宮坂 恒太	東北大学加齢医学研究所 神経機能情報研究分野 Salk Institute 米国	脂質代謝亢進ノックアウトマウスの解析とエクササイズ・ピルの開発に向けた基礎研究
森 貴裕	東京大学大学院薬学系研究科 天然物化学教室 Swiss Federal Institute of Technology in Zurich (ETHZ) スイス	非天然型生理活性ペプチド化合物の創出を目的としたペプチド合成酵素の酵素工学研究